

「楷の木」について

1. 楷の木の特徴

「楷」は中国では模範の木とされており、日本においても書体の「楷書」の語源とされていて、訓は「ノリ」、意味は「つよくまっすぐ」「てほん」です。

楷の木は、漆樹科の落葉喬木で、中国では、楷木、奥連木、黄連木と呼ばれ、台湾では欄心木(らんしんぼく)と呼んでいます。和名は「ナンバンナゼノキ」または「トネリバハゼノキ」といい、イチョウと同様、雌株、雄株の区別があります。実をつけるまでに20年もかかり、それまでは雌雄の区別がまったくつきません。また、発芽率は低い(50%程度)が、成長力は大きく、樹齢は700年にも達し、樹高は30mになります。現在、日本では非常に少ない木として珍重されています。

2. 楷の木の一生

発芽率の低い楷の木ですが、その成長と、四季折々に見せる美しい佇まい、特に秋の紅葉はすばらしいことが有名です。

3. 孔子にちなんで「学問の木」

孔子にちなんでこの楷の木を「学問の木」と呼ぶようになり、紅葉した落ち葉を大事そうに持ち帰る受験生もいます。

4. 「楷の木」は、栗原小学校のシンボル

本校にも「楷の木」があり、学校のシンボルとなっています。秋には、ハートの形に紅葉します。いつも栗原の子どもたちを見守っています。

6月



11月



1月

